



は しんぶん よつの葉新聞

福島県立平支援学校

第 8 号

令和3年10月吉日発行



「それを言っちゃーおしめいよ」

教頭 千葉 秀樹

映画「男はつらいよ」寅さんのせりふです。私が新採用教員時代に養護教育センター（現特別支援教育センター）の事業部長さんが初任者研修最後の講話の中で、これから先の人生でいろいろな困難や不満などがあつた際も、言つていいことと悪いことをよく考へてから話することが人間関係で大事であるという話をしてる中であつたと記憶しています。

現代のネット社会では、個々人が SNS で大量の情報を自由に発信し、子どもも大人も一喜一憂しています。コロナ禍にあつて、発信した一言が勇気や希望そして感動を呼ぶ一方で、心に深い傷を残すような誹謗中傷や残念な言葉も見られます。相手を慮る（おもんばかり）ことが今こそ必要です。

冒頭に寅さんの話をしましたが、私は「男はつらいよ」の大ファンで全50作品を見ました。映画では毎回、寅さんの名言が飛び出します。今回は、第40作『男はつらいよ 寅次郎サラダ記念日』の一コマを紹介します。甥の満男（吉岡秀隆）くんが受験勉強に悩んでたとき「何のために勉強するのかな？」と問われた寅さんは、次のように返しています。「人間、長い間生きてりゃいろんなことにぶつかるだろう。そんな時、俺みてえに勉強してないヤツは、振つたサイコロの出た目で決めるとか、その時の気分で決めるよりしょうがない。ところが、勉強したヤツは自分の頭で、きちんと筋道を立てて、“はて、こういう時はどうしたらいいかな？”と考へることができるんだ。」寅さん的には、何かにつぶつたとき、それを解決するための「考へる力」を養うために勉強が必要であることを言っているように思います。

地域支援センター（スタッフ：全教職員）は、地域の幼稚園、小学校、中学校、高等学校に在籍する本人や保護者、教職員、その他の関係者の支援ニーズにこたへることをミッションに活動しています。学校などへ伺つと、学習上の困難さ、生きづらさを抱へて、学校生活を送っている子どもたちと出会います。その中で、子どもの見方をほんの少し変へるだけで、周りの対応が変わり、子どもの変容につながるケースがあります。学校間に加え、福祉や医療との連携も課題解決へ向けて大切です。子どもたちにとって何が最良かを一緒に考へることができれば幸いです。

いわき地区特別支援教育研究会教育セミナーⅠの紹介



7月29日（木）、平支援学校を会場に『いわき地区特別支援教育研究会教育セミナーⅠ』が開催されました。

午前には8つの講座に分かれて講習会が行われました。ICT 機器の活用、授業づくり、障がいや支援方法の理解、福祉との連携など、様々なテーマについて理解を深めました。

午後には講演会が行われました。宮城教育大学の植木田先生に「発達障害のある幼児児童生徒の認知特性の理解と支援方法について」をテーマにご講演いただき、学級経営に必要な配慮事項や子どもたちの

行動の意味と理由を考へる機会にすることができました。

早期教育相談教室「あ・そ・び・ば」

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、第1回・4回は中止になってしまいましたが、今後は2学期2回、3学期2回を予定しております。（今後の感染者の状況により見合わせる場合があります。）

実施の際は検温や手指のアルコール消毒など、感染症予防にご協力いただきありがとうございました。限られた時間の中でも、充実したものにしていきたいと思っております。ご参加お待ちしております。



今後の「あ・そ・び・ば」は・・・

11/19(金) 12/17(金)

1/28(金) 2/18(金)

に行きます♪

よつの葉フェスティバル 11月2日(火)・4日(木)・5日(金)

3年に1度の行事、「よつの葉フェスティバル」が今年度開催されます。テーマは「みんなの笑顔で輪になろう！よつフェス2021」です。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、11月2日(火)が小学部、4日(木)が中学部、5日(金)が高等部の分散開催、各学部の保護者のみの参観となります。

各学部ともステージ発表や企画コーナーで日頃の学習の成果を発表いたします。同時に作品展「えがお展」や、児童生徒全員が制作したポスター展示会なども行います。

ただいまよつの葉フェスティバルに向けて全力で準備に取り組んでいます。



貸し出し用図書から

＜図書紹介＞ 「りゆうが 있습니다」

ヨシタケシンスケ作



『ストローをぶくぶくしちゃうのは 「いろいろあるけど、なんとかげんきに やっています」と、かみさまに ほうこくするための、せかいきょうつうの サインだから。』 ~本の中の一節~

『りんごかもしれない』や『みえるとかみえないとか』などで知られるヨシタケシンスケさんの絵本です。この本のテーマは「クセ」。

ハナをほじったり、ツメをかんだり、人には、つついやってしまう色々なクセがあります。子どもがそれをやっているのを見かけたら、注意しない訳にはいきません。

ですが、主人公の「ぼく」に言わせると、どの行動にもちゃんとした「りゆう」があります。ハナをほじるのは、ハナの奥にあるスイッチを押してみんなを楽しい気持ちにする「ウキウキビーム」を出すため。では「ツメをかむのは・・・」「貧乏ゆすりをするのは・・・」「ごはんをボロボロこぼすのは・・・」？

何とか「りゆう」を作ろうとする主人公。その「りゆう」がとにかく面白いです。注意する前にちょっと聞いてみようかという気にもなってきます。

子どもたちが、この絵本を読んで笑って、心が少し軽くなるような本です。

